

平成 26 年（2014 年）の十和田の火山活動

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

1 月に一時的に地震活動が活発な状況になりました。2 月以降は概ね静穏な状況で経過しました。

○ 2014 年の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1～3）

11 月 6 日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、噴気及び地熱域¹⁾は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 4、図 5）

十和田湖付近では、1 月 27 日 10 時過ぎから中湖(なかのうみ)付近の深さ 4～7 km を震源とする地震が増え始め、地震計で観測される地震回数は、17 時～19 時頃にかけては 1 時間あたり 100 回以上と非常に多い状況となりました。気象庁が震度情報の発表に使用する震度計では、震度 1 以上を観測する地震はありませんでしたが、地元への聞き取り調査によると、1 月 27 日昼頃から夜にかけて複数回の体に感じる揺れ（震度 3～1 相当）があったということです。

1 月 27 日夜から地震は徐々に減少し、28 日に入ってから 1 時間あたり数回の発生状況となりました。2 月以降は概ね静穏な状況で経過しました。

低周波地震、火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果によると、地震増加時及びその前後で十和田付近の地殻変動に変化は認められていません。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料は、気象庁のデータの他、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 26 情使、第 578 号）。

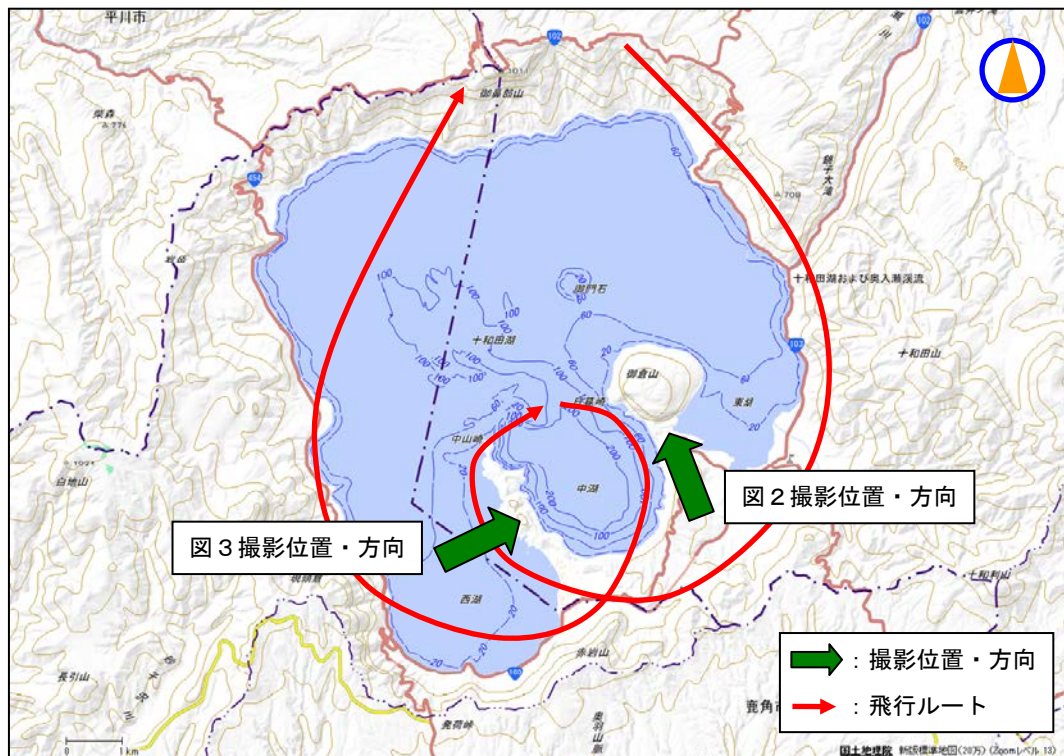


図 1 十和田 上空からの中湖付近と御倉山付近の写真及び地表面温度分布¹⁾
撮影位置・方向

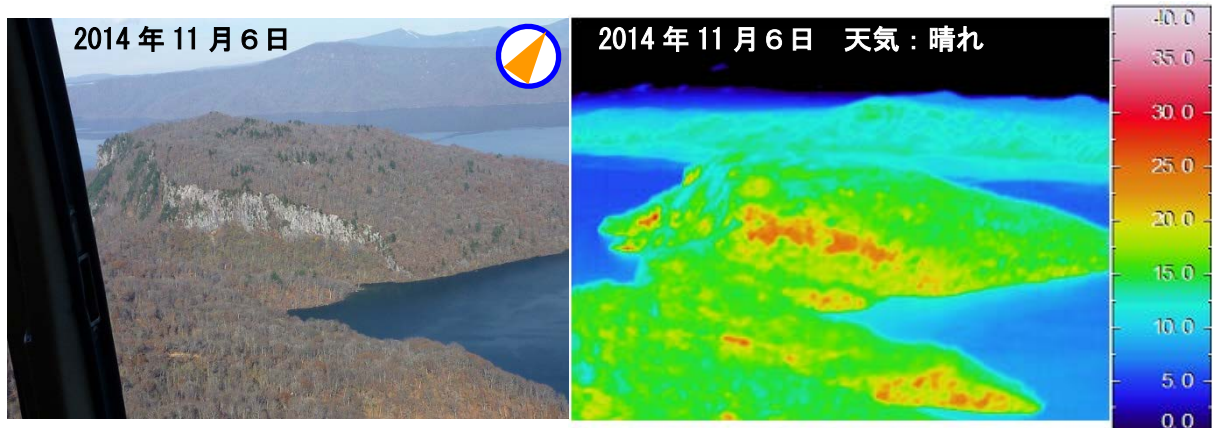


図 2 十和田 御倉山付近の状況と地表面温度分布

- ・噴気及び地熱域は認められませんでした。
- ・やや温度の高い領域は日射による影響です。

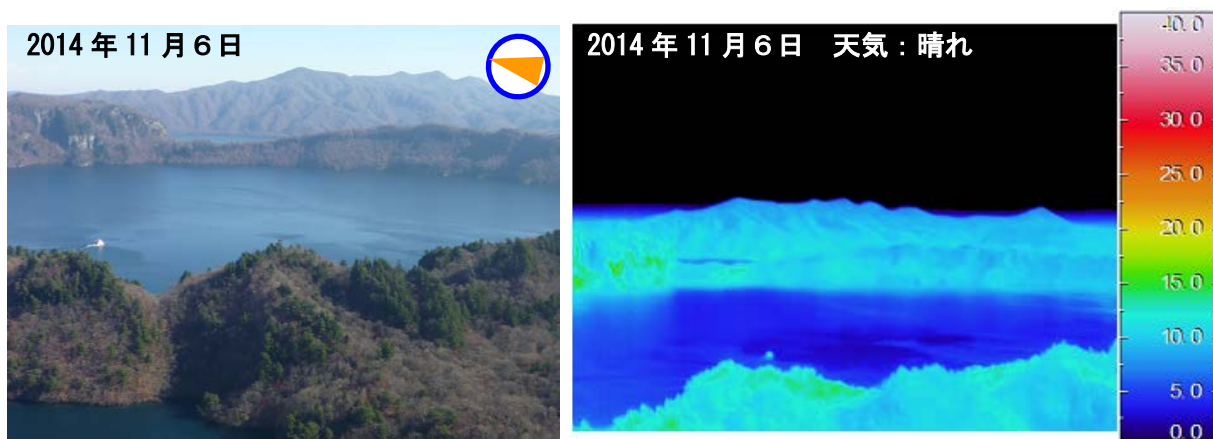


図 3 十和田 中湖付近の状況と地表面温度分布

- ・噴気及び地熱域は認められませんでした。
- ・やや温度の高い領域は日射による影響です。

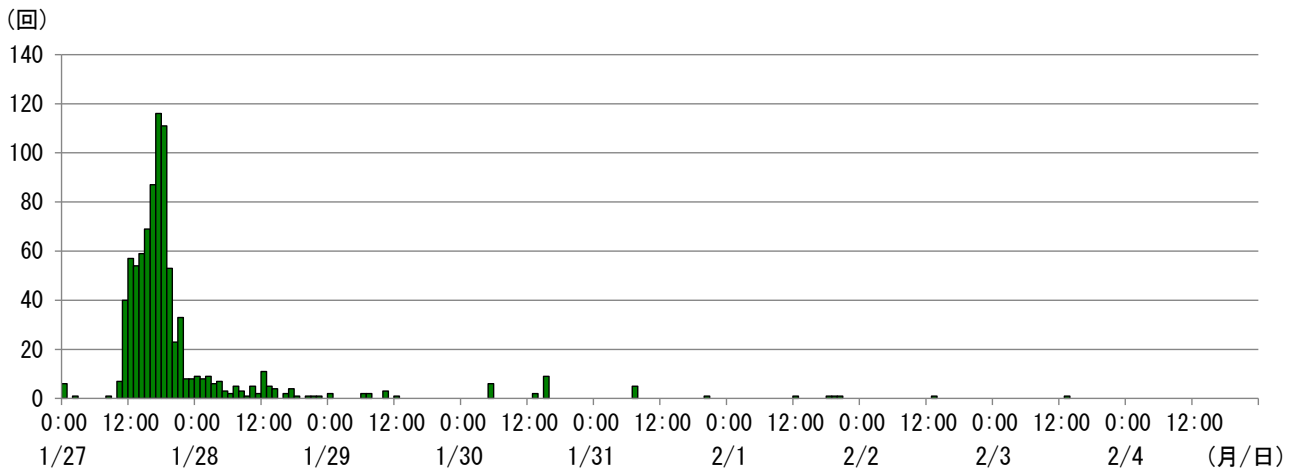


図4 十和田付近を震源とする地震回数

表示期間：2014年1月27日～2月4日

計数基準：H小坂観測点で上下動振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内

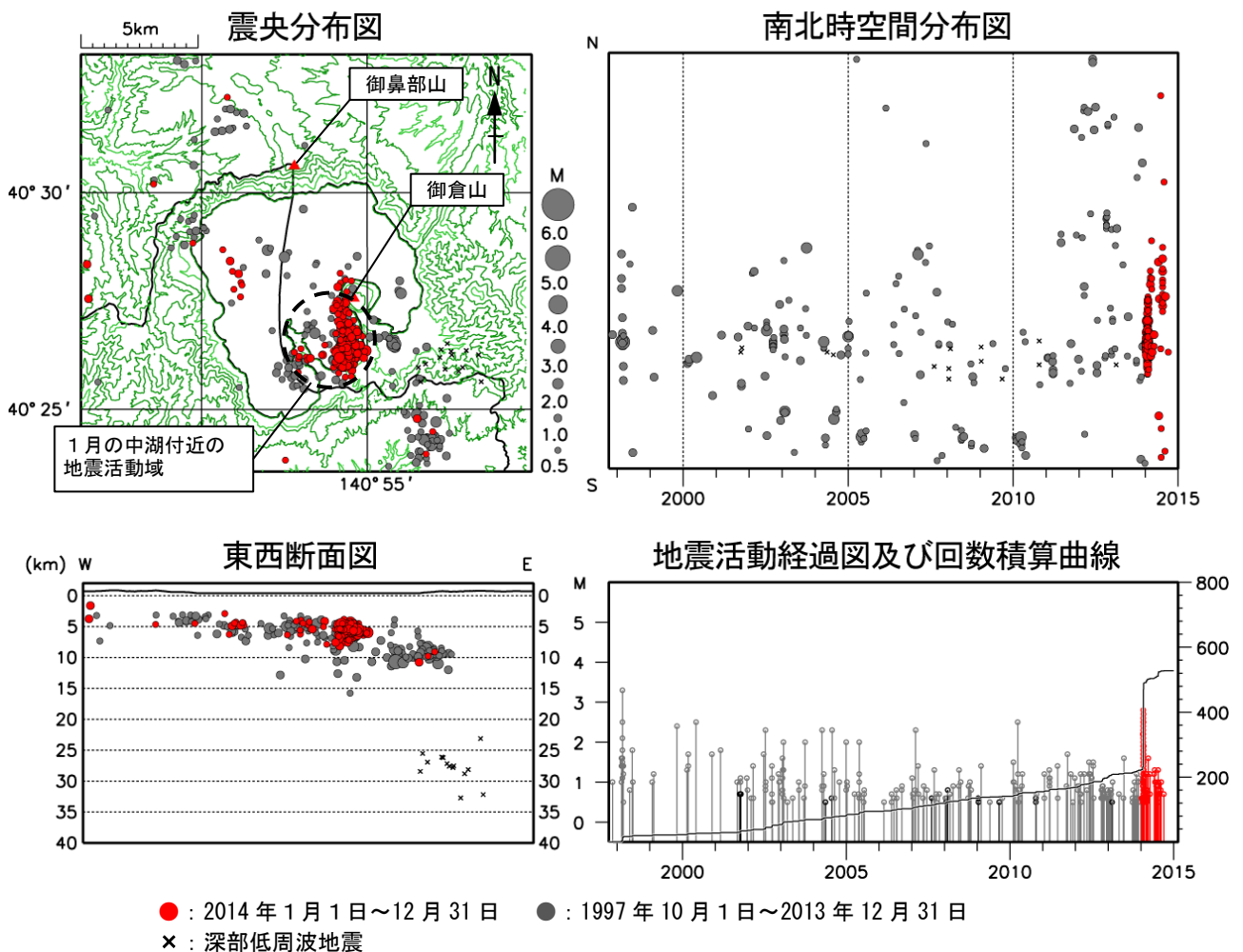


図5 十和田 広域地震観測網による十和田周辺の地震活動図 (1997年10月～2014年12月31日)

- ・2001年10月以降、検知能力が向上しています。
- ・低周波地震については、1999年9月から識別して登録を開始しました。
- ・マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値が含まれますので、後日変更することがあります。

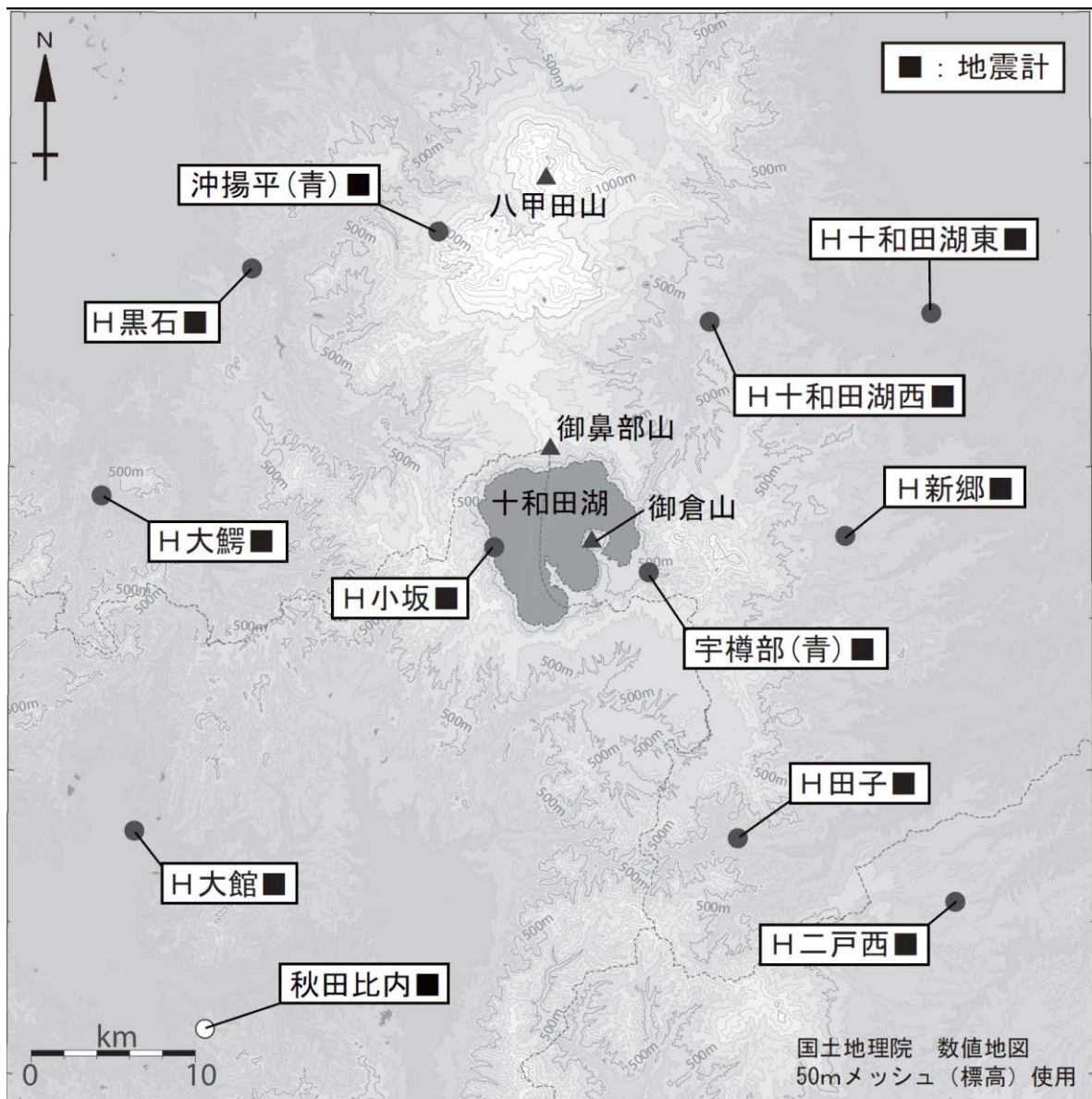


図 6 十和田周辺の地震観測点配置図

- ・ 小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
- H : 独立行政法人防災科学技術研究所、(青) : 青森県